

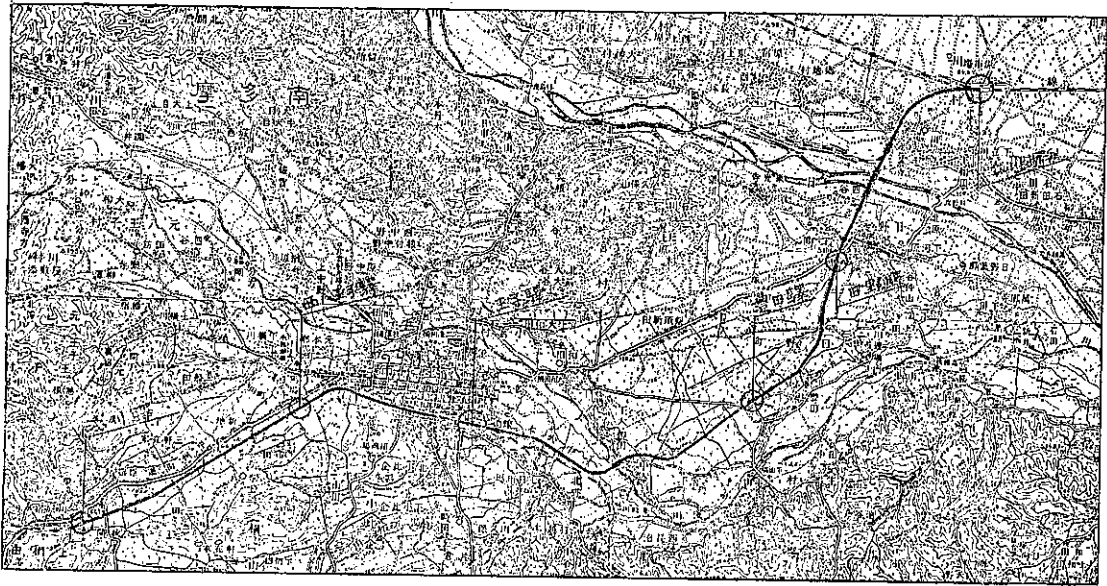
中央線豊田-浅川間線路増設工事概要

准員 松下秀樹*

1. 總 説

本工事は立川-浅川間線路増設工事の一部に屬し、立川以西約 16 km 餘浅川驛に至る單線區間を複線となすべく、昭和 10 年 8 月起工し同 12 年 6 月立川-豊田間約 6 km の完成により先づ複線運転をなし、次いで本年 3 月 31 日豊田-浅川間約 10 km 間の工事が完成せるにより複線運転を開始することとなり、茲に立川-浅川間線路増設工事の竣功を見ることとなつた。抑、中央線立川-浅川間は昭和 5 年 12 月列車線へ更に電車運転を併用延長すべく電化設備を施して列車電車併用の單線運転を開始せるに漸次に乗降客は増加して應て運転回數を増加すべき必要に迫りたるも、此の區間の運転方式は驛間を一閉塞區とせるタブレット方式なるを以て列車電車の

圖-1. 中央線立川-浅川間線路平面圖



運転時に制限せられて回數の増加は極めて困難なる事情にあり遂に輸送能力は限度に達し飽和状態となつた、而も多摩御陵參拜又は鮎漁の如き季節的臨時列車及電車の増發運行には尠からず困難を詠めつゝあり、殊に御召列車の運転に際しては定期電車を取消すの不得止實狀に迫れり。

茲に於て應急の對策として單線式閉塞自動信號裝置を施し以て電車列車の増發を計ることとなり、昭和 9 年 5 月に立川-八王子間、又同年 12 月八王子-浅川間に工事を施し、以て辛うじて列車電車の併用單線運転をなすつゝありたり。然るに昭和 6 年を最底とせる經濟界は漸次好転して年と共に活況を呈し客貨の輸送量は頗に活潑となり其の増量は躍進的にして圖-2 に示すが如く旅客交通量は年平均約 16% 増加の趨勢にて益々輸送能力の行詰りを訴ること甚だしく、ために之が對策として朝夕混雜の緩和又貨物輻輳の對策として列車及電車の増發は不可避の情勢となれり、此處に於て既定計畫に基き線路増設の要ありとし、之が促進のため昭和 10 年第 67 議會に

* 鐵道技手 鐵道省建設局計畫課勤務

表-1. 中央線立川-浅川間線路増設工事費決算額

| 目 節 | 細 節 | 金 額 (円) | 摘 要 | |
|-------------------------|-------------------------------------|-------------|-------------------|--|
| 中央線々路増設費 立川-浅川間線路増設費 | 測 量 費 | 11 059 | | |
| | 用 地 費 | 79 727 | | |
| | 土 工 費 | 227 607 | | |
| | 橋 梁 費 | 248 003 | | |
| | 溝 橋 費 | 16 736 | | |
| | 伏 植 費 | 4 269 | | |
| | 軌 道 費 | 551 697 | | |
| | 停 車 場 費 | 276 971 | | |
| | 信 號 及 保 安 装 置 費 | 268 724 | | |
| | 諸 建 物 費 | 33 056 | | |
| | 電 車 線 路 移 転 費 | 81 415 | | |
| | 電 燈 電 力 設 備 費 | 40 784 | | |
| | 通 信 線 路 設 備 費 | 111 613 | | |
| | 電 氣 信 號 及 保 安 設 備 費 | 277 109 | | |
| | 構 垣 及 境 界 杭 費 | 4 014 | | |
| | 建 築 用 具 費 | 11 688 | | |
| | 建 築 用 汽 車 費 | 43 055 | | |
| | 運 送 費 | 102 465 | | |
| | | 計 | 2 339 989 | |
| | 電 化 設 備 費 立川-浅川間線路増設 に伴ふ電化設備費 | 電 車 線 架 設 費 | 272 526 | |
| | | 計 | 272 526 | |
| 總 計 | | 2 662 515 | 1 km に付 174 000 円 | |

立川-浅川間線路増設費總額 210 萬円又着手年度を昭和 10 年度竣工期を同 12 年度即ち 3 ヶ年繼續事業として提案せるに議會の協賛するところとなりて成立せり、依つて昭和 10 年 8 月起工し越えて第 73 議會に更に 22 萬円を追加し竣工期を同 13 年度と改定し總額 232 萬円となれり。而して昭和 10 年 8 月工事着手後約 1 ヶ年即ち翌 11 年 7 月の日支事変に際會し戦線の擴大に伴ひ派生したる鉄鋼材其の他の統制の影響及勞力物資の不足にて工事の進捗を阻礙するところありたりと雖も工事擔任者の不斷の努力によりてよく豫定の期間に竣成して本年 3 月 31 日豊田-浅川間の複線開通により遂に全線の完成を見ることゝなれり。

2. 設 計 概 要

- (1) 工事施工區域 自立川 (自 27.230km 至 42.810km) 延長 15.580km
- (2) 在來線との間隔 3.6m
- (3) 軌 條 50 kg
- (4) 橋 梁

図-2. 中央線立川驛旅客通過人員表 (上り 1 日平均)

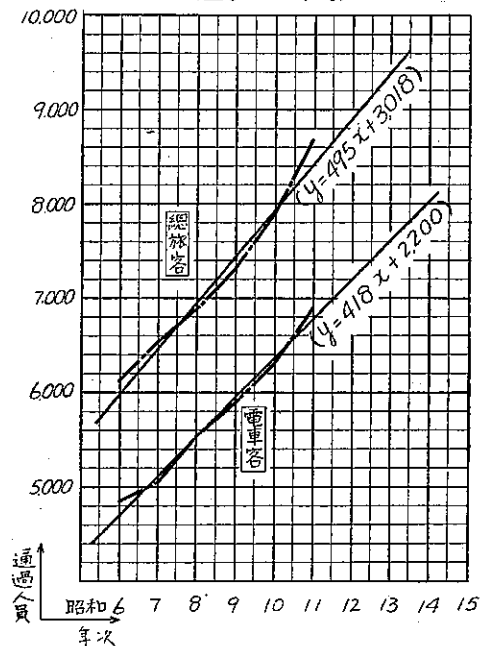
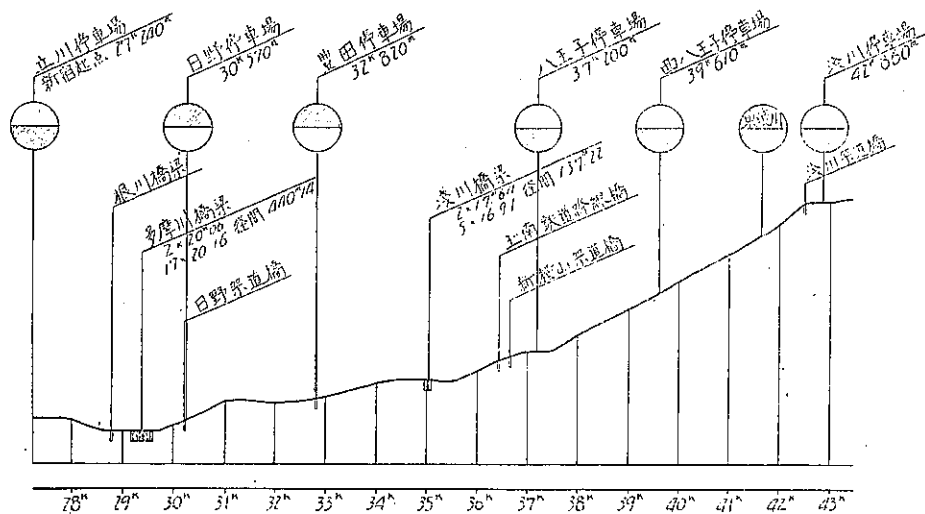


図-3. 中央線立川-淺川間線路縦断面図



主なるものを掲ぐれば

多摩川橋梁

- 径間：上路鋼桁 KS 18, 22.3m 19 連
- 總延長： 440.8 m
- 橋臺： 躯体コンクリート 基礎杭打
- 橋脚： 躯体コンクリート
- 基礎コンクリート井筒沈下

淺川橋梁

- 径間： 上路鋼桁 KS 18, 17.56m 2 連
- 16.91m 5 連
- 總延長： 137.22m
- 橋臺及橋脚： 躯体及基礎コンクリート

3. 各驛改良概要

(1) 日野驛

立川を距ること約 3km にありて、新本屋は甲州街道に面して設けられ極めて便利となつた。在來の本屋は舊甲州街道の急坂路中にあつたため車馬との連絡が困難であつた點などが改善せられた。尙八王子競馬場が此の驛の勢力範圍へ移転したため競馬開催當日は乗降客の夥しく雑沓することに鑑み出札窓口の如き相當多く設けた。又新本屋は此の地方特徴の家屋の型式に則つて設計せられて異彩のある又清楚な建物である。尙乗降場は相當高い盛土にあるため沈下によるホームの狂ひを考慮してラーメンの鉄筋コンクリートスラブにした。

図-4. 多摩川橋梁

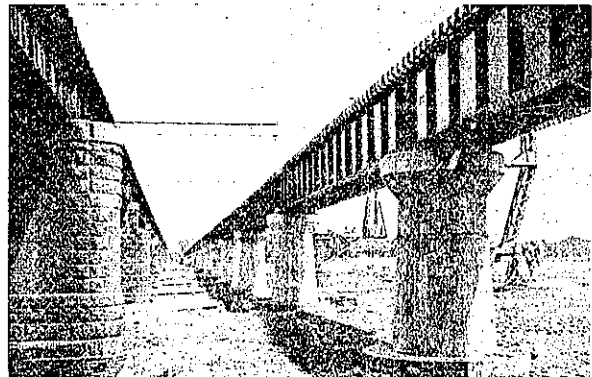
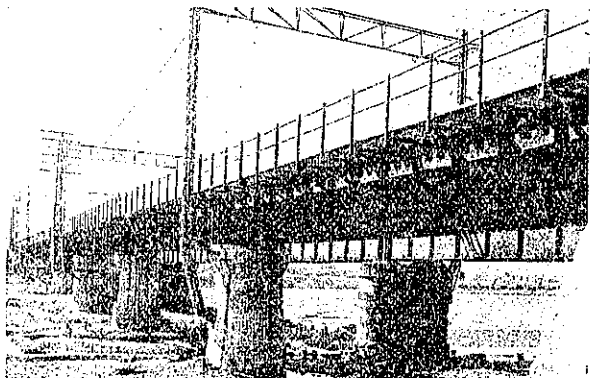


図-5. 淺川橋梁



(2) 豊田驛

立川より約 5 km のところにありて上下線の外に待避線を設け、又本屋を改築してこれも附近の農家に調和させて恰も山寺の如き極めて地味な型と色彩を施した。喩へば“綱代の天井”“荒削の柱”又母屋及桁に丸太を用ひ、尙塗装も暗燻色を以てせるが如き力めて地方色を取入れて居る。

(3) 八王子驛

本驛は八王子市の南端にあつて八高線と横濱線の接続地であり又相模鉄道が乗入をして居る關係上構内作業は甚だ複雑である。従つて今回増設工事に伴ひ構内配線は劇的に変更した。尙當市は生絲織物の特産地にて機業が又極めて發展して且つ農産物の集散地でもあり、最近市制を布かれた新興の地であるに鑑み本屋も改築に際して相當考慮して木骨コンクリートにして近代式の建物に改築し在來の狹隘なる本屋に比して面目を一新した。尙跨線橋は特に本屋側の階段をやめて勾配 10 分の 1 のランプにしたが如きは一新機軸で誠に異彩を放つて居る(図-9, 10 参照)。又信號機は電氣色燈を用ひ入換信號機は電氣燈列式、聯動は一種の電氣機であつて上下に各信號扱所を設け仕譯線は挺子集中とした。

(4) 西八王子驛

當驛は八王子市の西端にあつて八王子驛より約 2.5 km にあり地元の請願により設けられたる新設驛で今回複線運転開始と同時に營業開始された驛である。

(5) 浅川驛

浅川驛は大正天皇の英靈永へに神鎮ります多摩御陵への参拜下車驛で有名であり従つて季節的に参拜客のため混雑する。在來は臨時列車、電車の駐留線不足にて困難して各驛の空線を狙つて空車廻送を行つて居た不備を考慮して相當の駐留線を設ける事としたため構内配線は殆ど変更の不得止に至つた。即ち在來の貨物扱場を裏側に移し其の跡へ電車駐留線を増設し又各側線の有效長延伸を行ひ且つ列車、電車發着の各専用ホームを設けた。

次に驛本屋は改築せずして團體客の待合室を増設した。

図-6. 日野驛本屋並にホームを望む



図-7. 豊田驛本屋

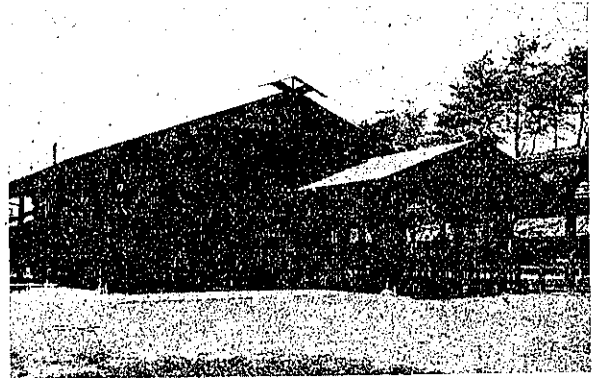
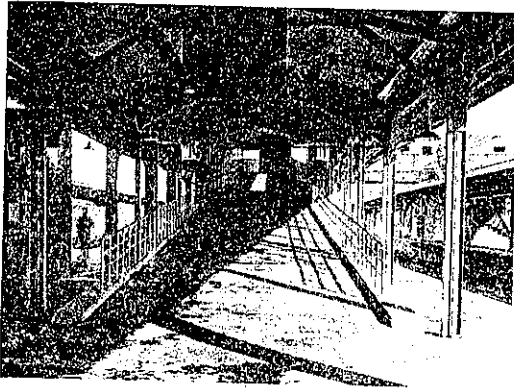


図-8. 八王子驛本屋並に同廣場



図-9. 八王寺驛跨線橋本屋側ランプ



4. 結 論

今回完成せる立川—浅川間複線工事は在來の單線式自動閉塞信號より解放せられ複線式自動閉塞信號となりたるため對向列車及電車の運行の緩和せるは勿論にして尙続行可能なるため列車電車を併せて考へるときは其の輸送量の増大は遙に大なるものがある。

時恰も東亞大陸に長期建設の段階に至り國防に産業に躍進目醒しき我邦の發展に對応せんとする中央線輸送強化は其の効果を齎すこと大にして全く期して待つものがある。

図-10. 八王子驛跨線橋

筑波中央ホームの円形なる跨線橋々脚は内空であつて、倉庫に使用されて居る。嘗て跨線橋の桁架設に際し元東京改良事務所長黒田武定氏の考案で足場なしに桁架をなすべく、横濱線ホームへの±線路及木屋ホームへの±線路の兩桁を中央ホーム上に於て連結組立此の橋脚と共に之を軸として列車各間に 90 度廻轉架設せる新方式を試みたるものなり

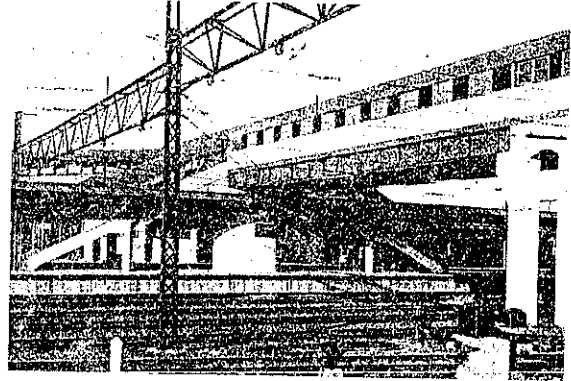


図-11. 西八王子驛本屋（新驛）

